

球磨川のほとりに咲くツクシイバラ ～100年後の人々に届けたい～



熊本県 錦町
球磨川ツクシイバラの会 / 錦町

手づくり郷土賞

グランプリ 2017

講評

大賞部門

一般部門

資料編

1 社会資本の概要

球磨川のほとりに5月中旬から6月中旬にかけて花を咲かせる「ツクシイバラ」は、九州を意味するつくし（筑紫）とイバラを合わせた名前、南九州独特の野イバラの意味です。普通の野イバラに比べて、花が大きく、葉に照りがあるほか、ピンクや白などの花の色があり、熊本県球磨郡錦町の球磨川河川敷は世界最大の自生地です。



多くの人々を魅了するツクシイバラ

この「ツクシイバラ」は、2004年に熊本県レッドデータブックにおいて絶滅危惧種Ⅱ類に分類された種で、一時は盗掘や自然環境変化などで激減しましたが、保護活動の結果、準絶滅危惧種に見直されるまでにその数が回復しています。自生したツクシイバラは、今年公式発見から100周年を迎え、その美しさは多くの人々を感動させています。



球磨川左岸に広がる、自生による群生地

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

「100人の動員よりも10人の好きな人」、「100年後の人々にツクシイバラ自生地を引き継ぎたい」との想いから、「ツクシイバラ」の保護活動や地域づくりを目的とした活動を行っています。ツクシイバラ開花時期に向け、年明けから清掃活動や除草作業を行い、ツクシイバラが咲き始める5月中旬から6月上旬までの週末は、自生地にて見学者のためにお茶と漬物で「おもてなし」を行い、ガイドやライトアップも行っています。開花の最盛期には他団体

と連携したスポーツイベントやコンサート・フォトコンテスト・スケッチ大会など多くの来場者で賑わうイベントも開催し、ツクシイバラの保護活動の啓発を行っています。

また、学識者の方を招き、地域の小学校や保育園などにて保護活動についての授業講演を行い、その中で参加者に標語を考えてもらい看板を製作・設置するなど、地域及び関係機関等と密に協働・連携しながら活動しています。



ツクシイバラ公式発見100周年おもてなし



ツクシイバラランニング大会



ツクシイバラスケッチ大会

3 活動の成果や波及効果等

活動を通じてツクシイバラの価値と保護の重要性を更に認識してもらうことで、地域住民の方々のツクシイバラへの愛着が深まっており、ツクシイバラ自生地での除草作業や清掃活動の参加者や見学者のリピーターも増えています。

また、平成24年に開催された国際バラ会議では、世界各国の研究者が見学に来られるとともに、公式メインポスターに「ツクシイバラ」の絵が採用されるなど、注目度は国際的になってきています。

さらには、平成20年10月1日に地域の理解を得てツクシイバラが町花になるとともに、自生地近くの木上駅の副名が「ツクシイバラの里」と命名されるなど、ツクシイバラが地域の宝となり自然環境をPRした町づくりにも繋がっています。



国際バラ会議参加者による視察



町花となったツクシイバラ



「ツクシイバラの里・木上駅」に改名

所在地
熊本県球磨郡錦町木上地先

活動主体及び連絡先
球磨川ツクシイバラの会
(0966-38-1784)

対象となる社会資本
球磨川ツクシイバラ自生地
※管理者：国土交通省
九州地方整備局八代河川国道事務所



喜びの声



受賞者

球磨川ツクシイバラの会
会長 桑原 史佳

コメント

ツクシイバラ公式発見100年の年に素晴らしい賞を頂き、ありがとうございます。会員一同、心から喜んでおります。手作業で始まった手作りの活動により、多くの人々の心と行動が集まり、ツクシイバラを中心に展開しています。これからも「できるしこ」を合言葉に、100年後にも繋がるように、明るく楽しい活動をしていきたいと思っております。

活動内容

- ・除草作業・清掃活動
- ・開花時のおもてなし
- ・次世代へつないでいく取り組み

活動の経緯

- 平成18年 球磨川ツクシイバラの会発足
- 平成20年 自生地の最寄り駅が「ツクシイバラの里・木上駅」になる
錦町の町花になる
- 平成27年 国土交通省から河川協力団体に指定
- 平成29年 ツクシイバラ公式発見100周年記念式典開催

手づくり郷土賞

グランプリ 2017

講評

大賞部門

一般部門

資料編